

平成 24 年 12 月 20 日

株式会社三菱東京 UFJ 銀行

## 東南アジアのインフラ事業を投資対象とするファンドへの出資について

株式会社三菱東京 UFJ 銀行（頭取 <sup>ひらの のぶゆき</sup> 平野 信行）は、今般、マレーシアの金融グループ CIMB Group（以下 CIMB）と、ファンド運営会社 The Rohatyn Group（以下 TRG）の 2 社が出資する Capital Advisors Partners Asia Pte. Ltd. が運営するファンド “The CapAsia ASEAN Infrastructure Fund III L.P.”（以下 本ファンド）に関する出資契約書に調印しました。

本ファンドは、インドネシア、マレーシア、タイ、フィリピン、ベトナムなどの東南アジア諸国における電力、再生可能エネルギー、交通、通信等のインフラ事業を投資対象とするプライベート・エクイティ・ファンドで、ファンド親会社である CIMB、TRG をはじめ、株式会社国際協力銀行（以下 JBIC）、バンコク銀行、DEG（ドイツ投資開発公社）も出資を行います。

本ファンドは 100 百万米ドルにて運営を開始（うち当行及び JBIC はそれぞれ 25 百万米ドルを出資）し、最終的に 350 百万米ドル以上にまで規模を拡大することを目標としています。

本ファンドへの出資を通じて成長市場である東南アジアでのビジネス機会の拡大を目指すと共に、JBIC と当行が参画することにより、本邦企業の東南アジア諸国におけるインフラ事業展開ニーズにもお応えできるよう努力してまいります。

ファンド名称	The CapAsia ASEAN Infrastructure Fund III L.P.
ファンド運営会社	Capital Advisors Partners Asia Pte. Ltd.（シンガポールのファンド運営会社）
ファンド運営会社主要株主	CIMB Group（マレーシアの金融グループ） The Rohatyn Group（米国のファンド運営会社）
当初ファンド総額	100 百万米ドル（うち当行 25 百万米ドル、JBIC 25 百万米ドル）
投資対象事業	東南アジアのインフラ事業
投資対象地域	インドネシア、マレーシア、タイ、フィリピン、ベトナム、 カンボジア、ラオス

以 上